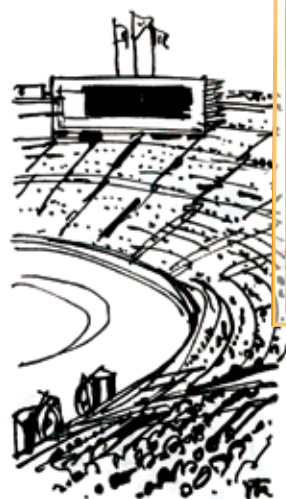


随筆再掲載

本誌創始期に連載した各界著名人による「随想」。半世紀を経て、いま、蘇える。



オリンピック寸感

梶山季之

私は、運動神経の鈍い方で、子供のころ自転車にも乗れなかったくらいだから、スポーツそのものに興味はない。

まして世界各国から集って、各競技の優勝を争うオリンピックなどには、全く無関心に近い状態であった。

だから、東京オリンピックの開催前に、感想文を求められると、きまって悪口を書いた。

私は、スポーツとは、正しいマナーに従って、勝敗を争うものだと思っている。その場合、ルール違反をしないことも大切だろうが、やはり根本は、勝つか、負けるかにあると思う。

ターベルタン男爵の、八参加することに意義があるVという言葉を、金科玉条のように考えて、勝て

る見込みのない選手を、オリンピックに送るのは、貧乏人根性の私には、どう考えても無駄なような気がしてならない。

下手な鉄砲も、数撃ちや当たる式の考え方で、大切な税金を浪費されては敵わないのである。

それにここ数年間、なにかといえ、オリンピックを錦の御旗みたいに振り翳し、「オリンピックの為に。オリンピックの為に！」

と、国民の視線をそらせて来た、政府や東京都のやり方も、私には気に喰わなかった。それで悪口をいっただのである。オリンピックよりは、水道の方が大事だ、と。

そんな私だから、オリンピックの開会式の切符を下さる方があったのに、あっさり断って、開会式の当日は取材をかねて、大阪へ来ていた。

そうして夕方、ホテルのテレビで、開会式のニュースを見たのだが、聖火台に火がともされるところをみていて、思わず涙が出た。

△この泪は、なんだろう？V

私は、自分が感激症だからだ、と思ってみたが、どうやらその泪には、少し別の意味が混っているようであった。

旅行から帰り、例によってホテルの仕事場で原稿を書いていると、電通で地方部長をしている成田豊君が、

「おい。オリンピック見たか？」
と、電話して来た。

「バカらしいから見ない」

と答えると、この中学時代の親友は（彼は戦後、東大の名投手であった）、口を酸っぱくして、

「とにかく俺に欺されたと思って、見に行けよ。」

もう俺たちの生きている間には、日本で開催されることはないだろう。それとも、四年後、メキシコまで行って見る気か？」

と、私を口説き、半ば叱りつける口調であった。

私は、この友人の言葉にも、一理あると思いつし、切符の手配も彼の好意に甘えた。

二十一日は、陸上競技の最終日で、マラソンのある日であった。

私が入場したのは、マラソンの出発の寸前であったが、色とりどりのランニング・シャツを着た、また皮膚も色とりどりの選手たちが、トラックを二周して場外に消えて行く姿をみたとき、△ふーむVと、思わず唸ってしまった。

七万数千人の大観衆。黒い煙をあげて燃える聖火の朱い焰。制服に身を固めた軍楽隊。グリーンフィールド。茶褐色のトラックに描かれた白いコース。電光掲示板。

……正直に言って私は、感動した。

これだけの人間を集めるゲームというのは、そうざらにないだろう。

私の周囲は、外国人ばかりで、葉巻の匂いが強く通路に漂っていた。その中に混っていると、私はマラソンに参加した日本選手に、ぜひとも勝って欲しい

いという気持になった。

リレーその他の決勝が終り、アベベが一着で戻って来た。このとき私は、さほど感動もしなかった。

長いこと（私には、長いことのように思えた）待た

されて、日本の円谷幸吉選手が帰って来、十米おいてイギリスのヒートリー選手が続いた。

それを見たとき、私は、

△あ、いかん！▽

△あ、いかに！▽

△円谷、頑張れ！ 円谷、頑張れ！▽

△あ、いかに！▽

しかし力尽きてしまったのか、ゴール三百米前で、円谷はヒートリーに抜き去られ、銀メダルから銅メダルに落ちてしまった。私はがっかりし、もう、あとの選手が帰って来るのを、見る気がしなくなって、そそくさと国立競技場を出た。

タクシーを拾うに手間どり、青山電話局まで歩きながら、私は、

△しかし三位になった円谷選手だって、世界中で三番目に速いということなのだ……▽

△あ、いかに！▽

△あ、いかに！▽

すると、胸のモヤモヤが霽れて来た。と、そのとき—私の頭の中には、開会式のニュースを見て、涙が出て来たとき、不図、甦えて来たのだ。

△ああ、ああ、ああ、ここ数年間、オリンピック、オリンピックといながら、やっと開幕に漕ぎつけ

たという安堵感と、日本も偉大な国家に復興したな……という感慨とが、狭い混って、涙腺を刺戟したためではなかったらうか？▽

私は、そんなことを考えたのである。

オリンピックは、その国の国威を示す競争なのだ、と割り切って考えれば、多くの選手を参加させ



ることも、意義がありそうであった。

その証拠に、二大国のアメリカとソ連は、どこの国よりも多く選手団を派遣し、金メダルの大半を、かつ獲ってしまっている。

もっとも、ソ連が三人乗りの宇宙船を打ち上げ、中共が核実験をやり、イギリスの労働党が政権をと

り、フルシチョフが解任された今日では、アメリカもオリンピックの金メダルの数を自慢にできないであろうが、危ぶまれた日本勢が、金メダルの数で三位となったことは私には嬉しい。

なんだか、日本も一等国に昇格したような気分である。

もつとも、今度の東京オリンピックについては、私なりにいろいろいい分はある。

水泳、陸上といった、オリンピックの花形である

ゲームで、日本が不振だったのは、体力によるものなのか。それとも、選手の練習に問題があるのか。

メキシコで開かれる次期オリンピックを前にして日本人はよく考えねばならない。

競艇など、東都知事がボート出身のせいでもあるまいが、信じられない位に金をかけ、強化訓練には

げんだと聞いているのに、予選で落ちてしまう惨敗ぶりであった。これなど原因をよく追及してみる必要が、ありはしないか。

またオリンピック後、当然やってくる不況の嵐についても、我々是对処しなければならぬ。

文句を書けばきりがなが、オリンピック嫌いの私が、マラソンの円谷選手の健闘をみて以来、オリ

ンピックなんか、どうでもいいと思わなくなったこととで、私は成田君にお礼をいわねばなるまい。しか

し、メキシコ大会では、核実験のできぬ日本は、銅ではなくて、金メダルを大量に獲得してくれなければ、困ると思っている。

（三芳修吉・画）